

## 個人や少人数での祈りのためのしおり：大いなる三日間と復活祭

待降節からはじまる教会の一年は教会暦と呼ばれます。その中心は毎主日（多くの教会では日曜日）での礼拝ですが、それらの中でさらに中心的な位置を占めるのが復活祭、イースターです。「大いなる三日間」は聖木曜日・聖金曜日・聖土曜日（主の復活の夜）からなり、復活祭にはじまる復活節を導きます。

以下は、日本福音ルーテル教会式文委員会発行の『式文ハンドブック』からの引用です。

「大いなる三日間」

聖週の木曜日から、教会暦の一年で最も重要な「大いなる三日間」に入ります。それは、「聖木曜日」・「聖金曜日」・「主の復活の夜」です。

・聖木曜日

「聖木曜日」には、主が弟子たちの足を洗われ、また、ご自身の体と血としてパンとぶどう酒を弟子たちに与えられた出来事を心に刻む「洗足と聖餐」の日です。…

・聖金曜日

翌日、「聖金曜日」は、主が十字架で苦しみ死なれたことを心に刻む「主の受難日」です。

・主の復活の夜

聖金曜日（主の受難日）の翌日「聖土曜日」を心静かに祈りの時として過ごし、その日没で四旬節は終了します。…その土曜日の夜半（従来は深夜）から主の復活を祝う日として位置付けられています。…洗礼式を行い、また洗礼を想起することが伝統的にふさわしい礼拝です。（式文ハンドブック 20 ページ）

ルーテル教会でも、復活祭を準備する三日間の重要性は認められていますが、週に一度しか教会に集えないという現実の中、その実践は困難です。今回、新型コロナウイルスの感染拡大の危機を受け、教会に集まることさえ難しい状況の中、それぞれが家で祈りのときを持ったり、家庭で少人数の礼拝を持ったりすることができるように、また、大いなる三日間と復活祭の意味と意義をあらためて捉え直す機会になればと、神学校の協力もえて祈りのしおりと短い説教とを用意しました。お役に立てば幸いです。

教区常議員会